

本町通り①

能勢街道の繁華街

先月号で、かつての池田のへそ、「井戸の辻」と呼ばれた場所を紹介しました。今こそ役場・警察署・郵便局・銀行など、まちの主だった機関は阪急「池田」駅周辺に集まっています。80年ほど前までは、この「井戸の辻」を中心にした通りに、これらの施設が建ち並んでいました。

わがまち
歴史散歩

市史編集だより⑩

めんも坂から本町通りを望む



「本町通り」としてご紹介いたします。この通りは、大阪と能勢などを結ぶ能勢街道の一部で、江戸時代から人や物資が行き交う主要幹線道でした。では、一体どんな様子だったのでしょうか。大正末ごろにさかのぼって、皆さんと一緒に歩いてみましょう。

当時、池田随一、いや北撰随一のにぎわいと便利さを誇ったその通りとは、現在の「ハローほんまち」商店街と、それに続く通りです。当時の旧町名から、ここでは「本町通り」としてご紹介いたします。この通りは、大阪と能勢などを結ぶ能勢街道の一部で、江戸時代から人や物資が行き交う主要幹線道でした。

田舎道から池田のまちへ

大阪方面から今の池田市域に入っても、能勢街道は小さな農村の集落をいくつか通るほかは、のどかな田畑や林が続きます。しかし、道が現在の辻ヶ池公園から建石町に入った辺りから、様相がずいぶんと変わります。街道沿いに民家や商店が建ち並び始め、次第にまちの中心に向かっていくことを教えてください。そのまましばらく進むと、この通りのにぎわいを見通すことができる場所に出てきました。9月号で紹介

しました「めんも坂」です。小さな集落からやって来た人々は、眼下の通りに沿ってずらりと並ぶ、商店などの大小さまざまな建物と、多くの人々の活気ある光景に、まちに来たことを実感したことでしょう。

町役場

この坂で初めに迎えてくれる公共施設が、現在の新阪急ホテル池田寮辺りにあった池田町役場です。大正10年（1921）刊行『池田町便覧』によると、町役場の敷地は100余坪。今の池田・府市合同庁舎の敷地は約3100坪、建築面積だけでも1200坪ほどですので、ずいぶん小ぶりだったことがわかります。

この建物は、昭和10年（1935）、池田町が細河村・秦野村・北豊島村の3つの村と合併するまで役場として使われました。その後も、大阪府の健康相談所や池田市の労働会館などとして昭和40年代まで利用されていましたので、覚えている方もいらっしゃるかも知れませんね。

問い合わせは市史編集担当（☎753・2904）

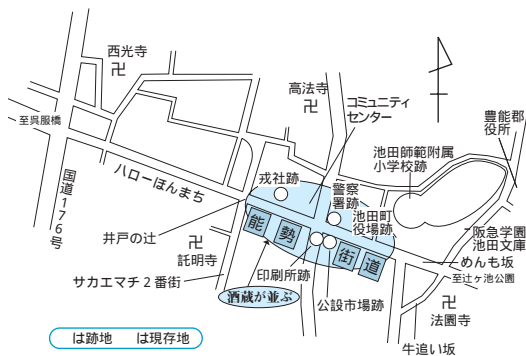


池田町役場

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●開館25周年記念特別展「なにわのスーパーコンサルタント—大根屋小右衛門の財政改革—」 ~12/11(日) ●企画展「池田文化と漢詩—蝸牛庵文庫資料より—」 12/24(土)~2/19(日)	●10:00~18:00 ●月・火曜日、祝日、12/14(水)~22(木)・28(水)~1/4(水) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●秋季展「雅美と超俗—琳派と文人画派—」 ~12/4(日)	●10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、12/5(月)~1/13(金) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	●展示なし	●9:30~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も)、12/28(水)~1/6(金) ●200円(図書館は無料)	

歴史散歩



池田の近代教育発祥の地

前回は、能勢街道である本町通りを、町役場の前までやって来ました。辺りからは、元気な子どもたちの声が聞こえてきます。町役場の北側をのぞくと、学校の校庭が見えます。池田師範附属小学校、つまり今の大阪教育大学附属池田小学校の校庭です。校舎は、やや奥手の一段高い石垣の上に建っています（現池田文庫

わがまち 歴史散歩

市史編集だより 12

本町通り ②

続く公共機関



池田師範附属小学校（北側）。この場所はもともと、池田で最初の小学校、第一番小学校（現市立池田小学校）が開校した所で、いわば池田の近代教育発祥の記念すべき場所なのです。

少し通りから北に外れますが、この校舎の東隣、現在の回生病院の南手には当時、豊能郡役所と呼ばれる豊能郡下の町村の監督官庁がありました。郡役所が設置されていたということは、池田がこの地域の中心だったことを物語っています。大正末に郡役所は廃止されますが、その建物は昭和に入ると、大阪府土木部池田出張所や豊能地方事務所などとして使われました。

再び本町通りの町役場前に戻ると、そのすぐ先が、中央の小塔が印象的な洋館2階建ての池田警察署（現ハローワーク辺り）です。当時の池田警察は、現在の池田市域のみならず、箕面市の大半も管轄し、地黄（能勢町）と岡町（豊中市）に分

池田警察署



署も有していました。この建物も、昭和38年に今の大和町に新築移転されるまで、本町通りのシンボリックな存在でした。

酒のまち池田の面影

道の向かいには20店舗前後からなる公設市場です。ずいぶん大勢の人々にぎわっています。開業は大正11年（1922）。生魚、牛肉、米、酒、薪炭、薬、文房具などの各店をはじめ、簡易な公衆食堂まで設けられていたそうです。

公設市場



公設市場の隣には印刷所があります。大正年間の刊行で、現在も高い評価を受けている『池田人物誌』や『池田叢書』は、この印刷所から出版されたものです。また、ここでは地域新聞の発行も手掛けていました。おや、なんだかとても良い香りがしてきました。目に飛び込んできたのは、通りに沿って建ち並ぶ、豪華な酒蔵です。どうやら、ちよūd酒の仕込みの時期だったようです。その圧倒的な存在感は、江戸時代全国に名をさせた、酒のまち池田の名にふさわしい雰囲気を感じさせています。

『池田叢書』は、この印刷所から出版されたものです。また、ここでは地域新聞の発行も手掛けていました。おや、なんだかとても良い香りがしてきました。目に飛び込んできたのは、通りに沿って建ち並ぶ、豪華な酒蔵です。どうやら、ちよūd酒の仕込みの時期だったようです。その圧倒的な存在感は、江戸時代全国に名をさせた、酒のまち池田の名にふさわしい雰囲気を感じさせています。

問い合わせは市史編集担当 ☎753・2904

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「池田文化と漢詩—蝸牛廬文庫資料より—」 ～2月19日(日) ☆ミュージアムミニトーク (1/15(日)14:00、聴講無料)	●10:00～18:00 ●～1/4(水)、月・火曜日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「小林一三と梅」 1/14(土)～3/5(日) ☆逸翁忌懸釜 (1/25(水)10:00～15:00) ☆講演会「梅と和歌・連歌・俳諧」(2/4(土)14:00)	●10:00～17:00 (入館は16:30まで) ●～1/13(金)、月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし (図書館のみ開館)	●9:30～17:00 (入館は16:30まで) ●～1/6(金)、月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も) ●200円 (図書館は無料)	

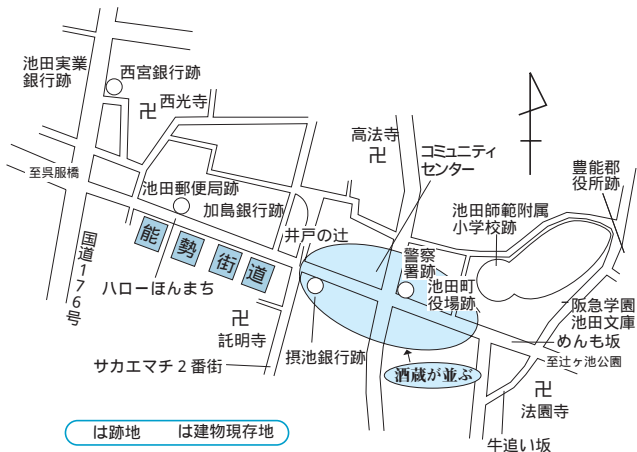
わがまち
歴史散歩

市史編集だより⑬

本町通り③

集まる銀行

前回は、豪壮な酒蔵の並びで、お酒のにおいに誘われましたが、今日は我慢して先に進みましょう。
今度は左手に銀行が見えてきました。撰池銀行です。井戸の辻より少し手前、今はマンションになっている辺りです。この銀行は池田で誕生



して本店が置かれた銀行としては最も古く、明治28年（1895）の開業です。後、昭和に入って山口銀行（三和銀行などを経て現三菱東京UFJ銀行）に営業が譲渡されます。
現在のように銀行の店舗数がそれほど多くなかった時代に、本町通りの近辺にはこの撰池銀行をはじめ、次に紹介するものも含め、数軒の金融機関が集まっていました。

あふれる買い物客

この辺りから、通りの両側に魚や肉、野菜、菓、呉服、雑貨などを扱う商店、旅館、料理屋などがずらりと軒を連ねています。人々の往来もさらに増え、荷車や人力車などもひっきりなしに行き交っています。

年の暮れなどの商店あげてのセールス期間は、川西・豊中の近郷はもとより、奥能勢などからも集まった多くの買い物客で、身動きも取れないほどのにぎわいだっただけです。

右手にひとときわ目を引く洋館が出てきました。後に三和銀行に吸収された加島銀行池田支店（現インテリアショップ）です。ハイカラな雰囲気の本町通りに一層の華を添えています。実はこの建物、東京の日本銀行本店や大阪市中央公会堂（ともに国指定重要文化財）などを手がけた日本近代建築の名手、辰野金吾が設計にかかわっており、国登録有形文化財にも登録されている由緒ある建物なのです。

大正7年建築の加島銀行池田支店



池田郵便局もすぐそばです（現不動産店の場所）。池田郵便局は明治4年（1871）の開設以降、その位置を転々とはしますが、大正末当時は、この本町通りにありました。

北撰池の通り

やがて、通りは北へ折れ、能勢街道沿いの町並みは、西光寺前から新町通りへと入っていきます。

どうでしょうか。わずか500メートルの間に、商店をはじめ、役場・警察署・郵便局・銀行などまちの主な機関が集中し、活気ある町並みを形成しています。西洋式の最新・一流のモダンな建物から、豪壮なつくりの酒蔵まで、新旧・和洋入り混じったその光景は、池田の歴史の重みと新たな勢いを表しているかのようです。この本町通りが、かつて、北撰池一のメインストリートだったということを、よく実感していただけましたでしょうか。

問い合わせは社会教育課市史編集担当（☎753・2904）
※火曜・祝休日は休館。

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「池田文化と漢詩—蝸牛廬文庫資料より—」 ~2/19(日) ☆ミュージアムミニトーク (2/19日)14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●2/22(水)~26(日)、月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「小林一三と梅」 ~3/5(日) ☆講演会「梅と和歌・連歌・俳諧」(2/4(土)14:00)	●10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	

本町通り④

突き当たりだった本町通り

前号までは、本町通りを西の呉服橋に向かって歩いて来ましたが、その際、今の商店街と大きく異なることに気付かれることでしょうか。それは、現在では通りのどこからでもよく見えている呉服橋が、まったく見えないことです。それもそのはず、本町通りの西端は、いったん大きな酒造宅で突き当たり、北側へかぎ状に曲がって今の国道173号に出る道筋になっていました。現在、薬局手前から西光寺へ抜ける道です。

車の事故で…

このかぎ状に曲がる道ですが、昭和7年(1932)暮れの大阪府会で地元選出議員が、「…非常ニ悪イ道路デ：最近ニ於キマシテモ九歳ノ学童ガ荷車ニ轢カレ：」と事故があったことを述べ、早急な道路改修を要望しています。

当時の朝日新聞にも「小学生がトラックに轢かれた現場附近の西之口道路(かぎ状の道部分・筆者注)は

幅員二間くらいしかなく、平常でもバス、トラックなど交通量が多く、自動車などが通る時は一般人の通行困難でつねに問題になっていた道路で…」という記事があります。

今、この道を歩いてみても、とてもバスやトラックなどが走っていたとは想像できませんが、昭和5年の池田町と川西町の案内図(左)には、ちようどこの通りの部分に乗合バスらしきものが描かれています。当時はバスやトラックなども、この細い路地を折れながら抜けていたのでしよう。



薬局横手をバスが通る(西光寺側から望む)

脇道になった能勢街道

やがて、要望が実って呉服橋まで直進できる新道が設けられ、本来の街道は、今見るような脇道となりました。

現在の薬局横手の様子(奥に西光寺を望む)



さらに、このころから町の中心が次第に阪急電鉄池田駅周辺に移り、本町通り全体も大きな変ぼうを遂げていきます。

今、この本町通りの改修工事が行われていて、再び大きく姿を変えようとしています。まだわずかに大正から昭和初期にかけての建物が残っていて、池田のまちなぎ時代の面影を味わうことができます。皆さんも、ぜひ一度実際に歩いて、体感してみたいかがでしょうか。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻 3500円、第2巻 4200円、第5巻 4500円、第3・4巻 編集

問合わせは、社会教育課市史編纂担当(☎753・2904)

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「古江古墳がつくられた時代 ～6世紀の猪名川流域を中心にして～」 3/1(水)～5/7(日) ☆ミュージアムミニトーク(3/19日)14:00、聴講無料	●10:00～18:00 ●3/22(水)、月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●早春展「小林一三と梅」 ～3/5(日)	●10:00～17:00(入館は16:30まで) ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30～17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	

市町村合併①

平成の大合併

少子高齢化、地方分権、厳しい財政状況…。市町村を取り巻くこれらの大きな環境の変化の中で、行財政基盤の充実強化を図るとともに、効率的な行財政運営や広域的なまちづくりを進めていくため、全国で市町村合併が進められています。いわゆる「平成の大合併」です。

池田市でも一昨年、豊能町との合併協議が行われました。結果的には合併には至りませんでした。この機会にまちの将来を考えた方々も多かったのではないのでしょうか。

そこで今回は、池田における合併の歴史について取り上げてみました。

明治の大合併

全国規模で町村合併が最初に行われたのは、明治22年（1889）「市制町村制」施行に伴うものでした。行財政機能を充実し近代的な地方自治制度を導入するためとして、明治政府は、約300〜500戸を標準規模とする町村合併を断行しました。



明治22年の合併

その結果、全国に7万1000余りあった自然発生的な江戸時代からの町村は、約5分の1の1万5800余りにまで減少しました。

池田でも当時20を超える村々がありました。この時の合併で、「池田町」「細河村」「秦野村」「北豊島村」の1町3村になりました。

戦前の合併

次に池田で行われた合併は、約40年後の昭和10年（1935）です。このときの経緯を、大阪朝日新聞の記事からしばらくさかのぼって見てみましょう。

まず昭和6年早々、大阪府の主導で池田町と秦野村が合併のための初懇談会を持ちます。翌昭和7年夏以降、大阪府は合併の促進を池田町・秦野村・北豊島村・細河村という1町3村の組み合わせで進めます。ところがその後、北豊島村は一部村民の反対で合併保留。協議は残りの1町2村で続けられていたようです。結局、合併後の新予算や、新町村名を「池田町」とすることなども1町2村で協議され、いよいよこの組

み合わせでの合併実現が目前となった昭和10年3月、ついに北豊島村も村会で合併希望を決議。ようやく、池田町・細河村・秦野村・北豊島村の1町3村の合併の枠組みが固まりました。

新聞は、8月の合併前日、各役場の引越しが行われ、病院を改装した新庁舎は、帳簿や調度品を満載したトラックや牛車でゴッタ返し、即日開庁をめざす吏員は目の回るような忙しさで、運び込まれた帳簿や器具の整理に徹夜となったことを伝えています。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中

★販売場所

社会教育課（市役所5階）、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、総合スポーツセンター、池田城跡公園売店、耕文堂書店、甲川正文堂

問い合わせは社会教育課市史編集担当（☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●常設展「目でみる池田の歴史」 ●企画展「古江古墳がつくられた時代—6世紀の猪名川流域を中心にして—」 ~5/7(日) ☆ミュージアムミニトーク (4/16日)14:00、聴講無料	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●春季展「一王朝の息吹—歌ごころの世界」 4/1(土)~6/11(日) ☆講演会「与謝野晶子の源氏物語礼讃—逸翁(小林一三)と美術品の世界—」(4/22(土)14:00)	●10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	●小林一三の演劇観—国民劇の創造と劇場経営— 4/7(金)~5/28(日) ☆講演会「小林一三と歌舞伎—『国民劇』への道—」(5/21(日)14:00、聴講500円)	●9:30~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	



合併祝賀祭りの地車の前で仮装して記念撮影（渡辺陽子氏提供）

大池田町の誕生

昭和10年8月10日、池田町・細河村・秦野村と、土壇場で加わった北豊島村の1町3村の合併により、いまの池田市と同じ区域の「大池田町」が誕生。3万1千人余りの総人口は、町としては当時府内3番目の規模でした。明治時代当初、20を超える村々があった池田は、こうして2回の合併を経て、現在の形になったのです。

合併後の11月、3日間にわたって祝典、公会堂や旧村小学校での漫才

市町村合併

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより

や奇術などの余興大会、提灯行列、仮装行列、全町小学校児童による旗行列や運動会などの合併祝賀行事が、町内各地で盛大に行われました。

当時の旧家の日記にも「四町村合併祝賀会が盛大に開催さるる（中略）各町内は思い思いに屋台地車などをくり出す模様」と、にぎやかな様子を書き記しています。なお、市制施行は、それから4年後の昭和14年4月29日のことでした。

臨時雇いの辞令

ところで、新聞には、合併のもう一つの現実を伝えています。各役場から引き継がれた吏員45人は、合併当日、全員に辞令が交付されたものの、その内容は「臨時雇いを命ず」というもので、助役も給仕もすべて日給扱いになりました。

さらにおおよそ1カ月後、合併事務の整理に当たっていた彼らの三分の一人が人員整理の対象となり、残った吏員はようやく正式採用になったものの、ほぼ全員が減俸。経費節減が合併の一つの大きな目的であったとはいえ、吏員にとって合併は随分



合併記念のスタンプ

昭和の大合併

と厳しいものになったようです。

戦後も全国的な合併が展開されました。昭和28年の「町村合併促進法」に基づく「昭和の大合併」です。行政事務の能率的処理を目的に、住民約8千人以上を標準とする合併が行われました。

当時の新聞記事によると、本市でも、箕面や、府県をまたいで川西などとの合併論議が何度か持ち上がったようです。残念ながら詳しい経緯はよく分かりませんが、いずれの場合も合併には至りませんでした。

これまでの合併の過程の中で消えてしまった村々の中には、細河・秦野・北豊島の各小学校の校名や、あるいは住居表示、自治会名、バス停にその名を残すものも少なくありません。たとえ行政体としての存在はなくなってしまうても、形を変えて人々の暮らしの中に生き続けているといえるでしょう。

池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中。

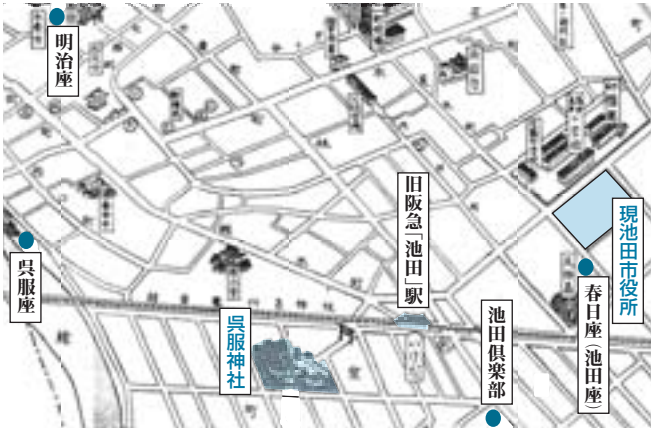
問い合わせは社会教育課市史編纂（0753・29904）

おわびと訂正 4月1日号本コーナーで、「明治22年（1889）」とあるのは「明治22年（1889）」の誤りです。おわびして訂正します。

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名（期間）／みどころほか	開館時間／休館日／料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「古江古墳がつけられた時代 6世紀の猪名川流域を中心にして」 ~5/7(日) ●企画展「近代池田の和歌と俳句」 5/17(水)~7/23(日) ミュージアムミニトーク（5/21(日)14:00、聴講無料）	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日、5/10(水)~14(日) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●春季展「王朝の息吹 歌ごころの世界」 ~6/11(日)	●10:00~17:00（入館は16:30まで） ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	●小林一三の演劇観 国民劇の創造と劇場経営 講演会「小林一三と歌舞伎」 ~5/28(日) 『国民劇』への道（5/21(日)14:00、聴講500円）	●9:30~17:00（入館は16:30まで） ●月曜日、5/2(火) ●200円（図書館は無料）	

歴史散歩



昭和初期の池田の芝居小屋と映画館

幻の春日座

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑩

女歌舞伎でこけら落とし

池田の芝居小屋としては、かつて猪名川川岸にあって、昭和44年（1969）に愛知県の博物館明治村に移築された「呉服座」が有名です。優れた劇場建築として国の重要文化財にも指定されています。ところで、

阪急「池田」駅の東にも芝居小屋「春日座」があったことをご存じでしょうか。今回はこの「春日座」をご紹介します。

昭和2年（1927）3月の新聞によると、菅原町の天神の森（現ステーションN辺り）に、伊丹町の「旭座」座主が池田劇場「春日座」を建築、5月に竣工予定と伝えています。建坪は100余坪、大阪市中の劇場と同様背景などはすべて電灯を利用とあります。翌3年9月、女歌舞伎の一座によって、こけら落としが行われました。ただし、この時の名称は「池田座」となっており、ほかに「池田劇場」とも呼ばれていたようです。

呉服座を上回る入場数

ところで、当時は芝居よりも映画の人氣があったようで、同4年の観客数は、池田にあった映画常設館の「明治座」と「池田俱樂部」の双方で前年の5割増の10万余人を記録。それに対し、芝居中心の「池田劇場（池田座）」と「呉服座」の2座では半分以下の4万人にも満たず、かなり苦戦していたようです。そのため商が買収、「春日座」と改称し、歌舞伎興行で再スタートしました。「春日座」では、代議士の報告会、警察署の病氣予防や交通安全の講演会などもたびたび催されています。今の市民文化会館のような役割も果たしていたのでしよう。すぐ近くにお住まいの方の話では、地方巡業の芝居が次々かかり、建物は「呉服座」よりも大きく立派だった印象があるとのこと。実際同6年の統計では、年間開場日数は両座とも200日前後でしたが、入場者数は「呉服座」の2万6000余人に対し「春日座」は2万9000余人と、300人ほど上回っていました。

全焼した春日座

「池田座」当時、消防組による防火宣伝も行われたこの芝居小屋は、皮肉なことに、同8年3月8日未明に失火とみられる火災が発生。近接町村から消防組合計35組、在郷軍人、青年団、警官らも駆けつけての消火活動も及ばず、全焼してしまいました。先ほどの近所にお住まいの方の話では、この火災の熱で自宅の窓ガラスがあめのように溶けてしまったそうで、その焼け跡は長い間荒地のままになり、相撲興行やサーカスなどが来ていたとのこと。

「春日座」という名の芝居小屋が池田にあったのはわずか2年。前身の「池田劇場（池田座）」を含めても5年ほど。その実態はほとんど分かっていません。「春日座」についてご存じの方、また、写真や図面など関係史料をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

問い合わせは社会教育課市史編纂
(☎ 753・2904)

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「近代池田の和歌と俳句」 ~7/23(日) ☆ミュージアムミニトーク(6/18日14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●春季展「一王朝の息吹—歌ごころの世界」 ~6/11(日)	●10:00~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、6/12月~7/7(金) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	



細河文庫の蔵書

国司図書館と細河文庫

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより¹⁸

先進的な細河村

本を借りたり調べものをしたり、図書館は今や私たちの暮らしになくしてはならない身近な存在です。本市には現在、三つの図書館があります。昭和24年（1949）開館の阪急学園池田文庫（建石町）、同37年（1962）、新町の旧池田実業銀行（現ピアまるセンター）を転用、開館の市立図書館（同55年、五月丘1丁目に移転）、そして平成10年（1998）開館の市立石橋プラザ（石橋2丁目）です。

ところで、今から100年ほど前の明治末ごろは、東京や大阪などの大都市以外では図書館はまだほとんどなく、府内においても数えるほどしかありませんでした。ところがこの時期、細河地域（当時、豊能郡細河村）には二つもの図書館（文庫）があったのです。

個人の篤志で開設

その一つは、久安寺（伏尾町）の国司図書館です。同寺の住職は以前から、幻灯（今でいうスライド）を用いた講話などを催し、人々の教育の普及向上を図るとともに、図書や博物標本などを収集して子どもたちに見せ、これを図書室として一般にも開放していました。明治41年（1908）、豊能郡教育会が、住職の名前から国司図書館と名付けました。もう一つは、細河村出身の貿易業者の寄付による細河文庫です。同44年（1911）、細河村青年会吉田支部の付属として開設されました。大正4年（1915）の記録では、国司図書館の蔵書は1100余冊、その大半が青年の修養に関するもので、年間の閲覧者は約900人、いっぽう、細河文庫の蔵書は1400余冊、蔵書は各方面にわたって収集され、閲覧者は200人ほどでした。

和漢洋の蔵書

府内でも先駆的な存在だった両図書館ですが、当時の記録には、立地

が多少不便なことから、細河村青年会員以外の一般の利用は少なく、図書の種類も手軽で趣味や実益につながるものが少ないと、その課題についても記しています。

両館ではその後、蔵書の充実に努め、大正10年（1921）には和漢・洋書合わせてそれぞれ2千冊を超え、昭和2年（1927）の細河文庫の蔵書目録には、「英文構成法」や夏目漱石の「我輩は猫である」、「ガリヴァー旅行記」など、学習参考図書から国内外の文学作品まで、内容もなかなかバラエティーに富んだものとなっています。さらに国司図書館では、細河小学校などへ蔵書を寄託し、より利用しやすくする取り組みも行われ、地域で一定の役割を果たしながら、両図書館が着実に発展していった姿がうかがえます。

ところが、府内の図書館一覧に国司図書館は昭和2年から、細河文庫も同10年からその記載がなくなります。理由はよく分りませんが、両館とも活動を休止してしまったのかもしれない。なお、細河文庫については、蔵書の一部が近年、市立歴史民俗資料館に寄贈されました。

問い合わせは社会教育課市史編纂
☎753・2904

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「近代池田の和歌と俳句」 ~7/23日 ☆ミュージアムミニトーク (7/16日14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日、7/26(水)~30(日) ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●夏季展「青蒼の美—染付のうつわ—」 7/8(土)~8/13(日) ☆講演会「美術館が街をかえる」 (7/29(土)14:00、聴講無料)	●10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日(7/17は開館)、~7/7(金)、7/18(火) ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30~17:00 (入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	

幻の春日座②

春日座の写真

前々号で、昭和初めごろ、現在のステーションN辺りにあった「春日



座」を紹介したところ、早速、市民の方から、いろいろな情報をお寄せいただきました。まずはこの場をお借りして、厚くお礼申しあげます。今回は、お寄せいただいた情報の中から、一枚の写真を紹介しましょう。わずかな数年で焼失してしまった幻の春日座の全景が写された、大変貴重な写真です。

蘇ったありし日の春日座

まず、立派で本格的なその姿に驚かされます。正面にはいくつもの花輪が華やかに飾られています。さらに、軒先にはかなりの量のお酒やビール、サイダーなどが積み重ねられています。春日座と改称された際の柿落(こけおとし)の様子でしょうか。そうだとすれば、撮影されたのは、昭和5年(1930)末と考えられます。

向かって右手側が入場口のようです。横手には「招待券 会員券 演者券 なき方 の入場絶対御断」という紙が張られています。

軒下には大きな6枚ほどの絵が掛けられています。歌舞伎などを題材にしたものようですが、訪れた人たちは、この絵を見上げて、これから始まる興行に、わ

くわくとした気分になったことでしょう。

屋根の上には、太鼓櫓(たころう)が設けられています。これは、明治村に移設された呉服座にも備えられています。実際に、開幕や終演を告げる太鼓が鳴らされていたのかも知れません。この櫓に「池田 春日座」の文字と、この春日座を買収して再興した生魚商の商標「蝶千鳥」のマークが誇らしげに入っているのも目を引きま

明治座と池田倶楽部

昭和初期の池田には、この春日座や呉服座の劇場のほかに、明治座や池田倶楽部(もしくは池田キネマ)という名前の映画館もありました。このように小都市としては多くの娯楽施設があり、これは近代池田の特徴の一つともいえそうです。

ところで、昭和50年代まで営業していた明治座の歴史は、明治のころまでさかのぼる可能性が高いのですが、残念ながら、創業当初の経緯を示す資料は残されていません。また、池田倶楽部に至っては、具体的なことはまったく分かっていません。どんなことでも結構ですので、情報をお寄せください。

問い合わせは社会教育課市史編纂
(☎753・2904)

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「はがきいろいろ―葉書が描く時代―」 8/2(水)~10/8(日) ☆ミュージアムミニトーク(8/20(日)14:00、聴講無料)	●10:00~18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●夏季展「青着の美―染付のうつわ―」 ~8/13(日) ●特別展「細川護熙・加藤静允 数寄に生きる 一書・画・陶磁―」 9/16(土)~10/9(祝)	●10:00~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日 ●一般700円、学生500円、中学生以下200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	展示なし(図書館のみ開館)	●9:30~17:00(入館は16:30まで) ●月曜日、第1水曜日、祝日(月曜日の場合は翌日も) ●200円(図書館は無料)	



銭屋五兵衛の碑

わがまち
歴史散歩

市史編集だより⑩

銭屋五兵衛の碑と池田の西光寺

非運の豪商・銭屋五兵衛

阪急宝塚線の川西駅と雲雀丘花屋敷駅間の沿線山手側、栄根寺薬師堂の跡地に、明治35年（1902）建立の「日本貿易開祖 銭屋五兵衛紀念碑」という碑が建っています。

銭屋五兵衛といえば、幕末期、加賀（石川県）から全国各地への積極的な海運業などで飛躍的に財を成したのですが、金沢市などに位置する河北潟の干拓工事で、反対派によって干潟に毒を流したという疑いをかけられて、嘉永5年（1852）獄

死し、財産没収、家名断絶となった悲運の豪商として知られています。

3代にわたる努力

遠地の豪商の碑がこの地に建てられた経緯を、明治41年（1908）の新聞記事では次のように紹介しています。

池田の西光寺の住職は能登出身で、父の代から懇意であった銭屋五兵衛の死を伝え聞き、功績を伝えるべく、西光寺の住職預かりとなっていた栄根寺の境内に彼の記念碑を建てようと思ひ立ちます。しかし、経済的な面から、意志を継いだ次の住職の代になっても、建立は実現しませんでした。

当初から3代目の住職のとき、ようやく転機が訪れます。阪鶴鉄道（今のJR宝塚線）の敷設による一部境内地の売却資金を元手に、栄根寺境内の整地まで進めます。ところが、果たせるかな、ここで資金が底をついてしまいます。

建碑の実現

このときの境内の整地を手掛けたのが、銭屋五兵衛と祖父の代に交流があったという、福井県敦賀の出身東塚一吉という人物でした。

しかも、彼は阪鶴鉄道架設の工事請負人として、偶然にこの地に来ていたのですが、もともと自身も銭屋五兵衛の碑を建てようと考えていたこともあり、ついに池田に居を構え

て、西光寺住職らを発起人に、明治33年（1900）に建立に着手、栄根寺に記念碑を建てるに至ったとあります。

ちなみに、東塚一吉ですが、川西市の花屋敷から満願寺までの道中に「炭酸泉花屋敷温泉」を開き、花屋敷開発の先駆となった人物でもありました。

残念ながら、栄根寺は平成7年の阪神・淡路大震災で、唯一あった薬師堂も倒壊して、寺があったことがうかがわせる建物は何も残っていません。しかし、この記念碑は、その後、整備されて、北陸の著名な豪商と池田・川西の地との意外な結びつきをしのばせてくれています。

★池田市史の刊行状況

★『新修池田市史』第一・二・五巻販売中、第三巻（近代編）と第四巻（現代編）は編纂中

★販売場所

社会教育課（市役所5階）、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、耕文堂書店、甲川正文堂ほか

問い合わせは社会教育課市史編纂（城山町3 45、城山勤労者センター内、☎753・2904）

火曜・祝休日は休館。

みゅうじあむ・がいど

館名	展示名(期間)/みどころほか	開館時間/休館日/料金	地図
市立歴史民俗資料館 ☎751・3019	●企画展「はがきいろいろ―葉書が描く時代―」 ～10/8(日) ☆ミュージアムミニトーク（9/17(日)14:00、聴講無料）	●10:00～18:00 ●月・火曜日・祝日 ●無料	
(財)逸翁美術館 ☎751・3865	●特別展「細川護熙・加藤静允 教寄に生きる 一書・画・陶磁―」 9/16(土)～10/9(祝)	●10:00～17:00（入館は16:30まで） ●月曜日（祝日の場合は翌日）、～9/15(金) ●一般1,000円、学生500円、小・中学生200円	
(財)阪急学園 池田文庫 ☎751・3185	展示なし（図書館のみ開館）	●9:30～17:00（入館は16:30まで） ●月曜日、第1水曜日、祝日（月曜日の場合は翌日も） ●200円（図書館は無料）	